

一 品と云ふ事

品とは釈に云はく「義類同」と云へり。此の法華經は三仏寄り合ひ玉ひて定判し玉^{じょうはん}へり。三仏とは釈迦・多宝^{ふんじん}・分身^{ひょうじょう}是なり。此の三仏評定^{ひょうじょう}してのたまはく、一切衆生皆成仏道は法華經に限りてありと。皆是真實の証明、舌相梵天^{ぜっそう}の誠証^{じょうしょう}、要當說真實の金言、此等を義類同じて題したる品の字なり。天竺には跋渠^{ぼっこ}と云ひ、此には品と云へり。釈迦・多宝・分身の三仏の御口を以て指し合はせ、同音に定判し玉へる我等衆生の成仏なり。譬へば鳥の卵の内より卵^突をつゝく時、母又同じくつゝ^突きあくるに同じき所をつゝきあくるが如し。是即ち念慮^{かんのう}の感応する故なり。今法華經の成仏も是くの如くなり。三世諸仏の同音同時に定め玉へる成仏なり。故に經に云はく「從^{じゅうぶつ}仏口生^{くしょう}」「如^{によじゅうぶつ}從^く仏口」等云云。